

2016年10月7日発行
—筑波大学の知の発信—

—自然・災害・戦争の 記憶から学ぶ

伊藤 純郎・山澤 学 編著

自然、災害、戦争。——グローバルな現代文明を生きる私たちは、さまざまな「破壊」に直面し、「再生」への道を求めている。しかし、同じような状況は、変革期と称する過去の時代にも、たびたび出現していた。本書は、歴史学・人類学の視点で、古墳時代から現代までに起こった「破壊」の状況と形態、そして「再生」に向けた方途を検証しています。今を生きる私たちに課せられた諸問題を考える手がかりとなるでしょう。

破壊と再生の 歴史・人類学



【目次】

- 変革期の破壊と再生研究序説
- 第Ⅰ部 生活の場における破壊と社会秩序の再生
 - 第1章 古墳の造営と地域社会
 - 第2章 自然災害の記録と社会
 - 第3章 景勝地の風景美の変容
 - 第4章 テロリストの原風景
 - 第5章 津波とともに生きる人びと
- 第Ⅱ部 戦争の暴力と戦後社会の再生
 - 第6章 英霊礼賛
 - 第7章 第二次世界大戦の記憶とアメリカ
 - 第8章 知識人の実践からみる日本社会の「再生」
 - 第9章 軍用地返還の経緯と跡地利用の実体験
- あとがき

A5 判並製 224 頁 2,800 円+税
ISBN978-4-904074-41-1 C1020